

屋台は「男のもの」今は昔一

播磨の祭りきらり女子力

「主役は男」が当然だった播磨地域の秋祭りでは、女性が屋台の担ぎ手やだんじりの引き手として参加する流れがじわじわと広がりつつある。人口減で人手不足に陥っている郊外や、若い世代の新住民が増えた町でその傾向が目立つ。積極的に女性に参加を呼び掛ける地区もあり、専門家は「祭りの在り方が、古来の収穫への感謝から地域のつながりに重きを置くようになった」と分析。伝統継承を模索するようになった変化を肯定的に見る。(宮本万里子、小林良多)

人口減の姫路郊外など

「ヨイヤサー」。今頃は30〜40代の女性約20月7日夜、姫路市飾磨区の人。数年前、食事の手配や住宅街に高い声が響いた。乗り子の子どもの世話など地元・早川神社の秋祭り本 裏方に奔走する女性たちを宮で、蔵入り前の屋台を担 ねざらおうと担ぎ手を任せ



担ぎ手確保、地域結束に一役

たのが始まりだ。

肩にタオルを当てて担いだ山口美奈さん(43)は「わたしは育った姫路市内の別の地域では屋台は『男のもの』だった。女性が担いで驚いたけど、達成感と一体感は格別です」と笑顔。祭典委員長の浜田武良さん(75)は「これから地域を引っ張ってもらう若い世代が地域に増えた。男女関係なく思いを託したい」と目を細める。

同じく若い世代が多い同市西今宿にある高岳神社でも、一部の氏子地区で女性の担ぎ手を認めている。頭に鉢巻き、法被姿で屋台を揺らした専門学校生梅本真希さん(18)は「祭りは見るだけでなく参加するもの。危なくなければ、ほかの地域でも男女一緒にやれたらいいの」と話した。

同市田国の白國神社も、「祭りにはみんなのもの(三

男性に交じって若い女性が屋台を担ぐ高岳神社氏子の名古山地区=姫路市名古山町



富田林逃走

盗難情報求め
所持品を公開

容疑者の衣類など

大阪府警は10日、富田林署から逃走し加重逃走容疑で再逮捕された樋田淳也容疑者(30)が確保時に所持していた衣類などを公開した。いずれも盗品とみられるが、同容疑者は黙秘を続

ひき逃げか所

京都の国道、10

10日午前4時10分ごろ、京都府精華町乾谷の国道で、「道路に人が倒れている」と110番があった。府警木津署などによると、

蔵入り前限定で屋台を担ぐ早川神社氏子地区の女性たち=姫路市飾磨区

活路を求め、同市網干区の魚吹八幡神社でもだんじりの引き手を女性も担う。

定。同市夢前町の天神社は氏子5地区のうち1地区が担ぎ手不足で女性の参加に活路を求め、同市網干区の魚吹八幡神社でもだんじりの引き手を女性も担う。

10日午前4時10分ごろ、京都府精華町乾谷の国道で、「道路に人が倒れている」と110番があった。府警木津署などによると、